

川崎市労働資料室だより

NO.21 平成 30 年 夏号

今年の春は記録的な温かさだったそうです。冬からいきなり初夏になったような陽気のせいで桜、藤、つつじ、ネモフィラ…軒並み満開が早くなり、春の花をゆっくり楽しむ間もなく終わってしまいましたね。近づく本格的な夏、いったいどんな夏になるのでしょうか。

さて、今回の労働資料室だよりは川崎市労働資料室が入っている

川崎市立労働会館のこれまで

です。

川崎市の勤労者行政は昭和 21 年 8 月の労政課設置に始まりを見て以来、大変積極的な取り組みをしてきました。その一環として昭和 26 年 12 月、全国に先駆け川崎市立労働会館を建設し、労働組合その他諸団体の文化・慰楽・集会等のために種々の便宜を供与することになりました。

会館における事業として

- 翌年から東京大学セツルメントによる「無料法律相談所」を設置。
- 記念講演「労働問題討論会」、さらに「労働問題講演会」など続けて開催。
- 昭和 28 年 「労働問題相談所」開設。
- 昭和 29 年 資料室だより NO.14 で詳しくご紹介した「川崎労働学校」第 1 期を開校。（本年度は第 114 期を開校予定）
- 昭和 31 年 全国初の「公立結婚式場」を開設。以降平成 17 年まで併設され、最も利用者の多かった昭和 39 年度は年間 2,053 組を数える。
- 昭和 51 年 館内に川崎市労働資料室が開設される。
- 昭和 56 年 労働会館改築工事終了、愛称サンピアンかわさきとなる。
- 平成 11 年 公共施設予約システム（ふれあいネット）稼働、現在に至る。



労働会館外景

※以上、川崎市労働情報、川崎市史、川崎市労働会館概要を参照

工業都市川崎は勤労者行政において近隣の自治体に大きな影響を与える市政をいち早く取り入れた市であります。上記の「労働会館のこれまで」でもふれたように会館開設に関連して次々と新しい試みが行われてきました。

川崎駅から海側に徒歩約 15 分、向かい側に緑豊かな富士見公園を控える静かな環境の中で市民の方々が気軽に利用されていますが、今でも「川崎労働学校」「市民と働く者のフェスタ」「技能功労者授賞式」など多くの働く者への応援と慰労の場になっています。



…ご利用者の声から…

労働組合で資料を扱う部署に配属されて1年になります。こちらの資料室には、どのような資料を所蔵・分類されているか見学するため、今回初めて伺いました。

こちらでは地元である川崎市内の企業や労働組合はもちろん、神奈川県内、さらには全国規模の産業別組織など、幅広く資料を収集・公開されています。また、独自の分類法に基づき整理された膨大な資料は、ウェブ上から誰でも検索可能なデータベースにすべて登録されており、スタッフの皆さんの努力と熱意に頭が下がる思いです。

現在、労働関係の資料は発行元にすら残っていないことも多く、収集は年々困難になっています。一方、働き方が多様化し、労働のあり方に対する社会の関心が高まりつつある今こそ、過去の資料から歴史を学び、よりよい未来を模索することが必要です。今後、こちらの資料がさまざまな研究に活かされ、新たな社会を作り上げていく大きな助けとなることを心から願っております。



こんな資料を見つけました

労働資料室には、いろいろな写真資料もあります。その中の一つ、今回はメーデーアルバムをご紹介します。これは昭和40年第36回統一メーデー川崎地区大会の写真。この会場を埋め尽くす人の波、なんとも迫力がありますね。別の写真には小さい子どもを連れた母、プラカードを掲げて練り歩く壮年層の方まで実にさまざまな参加者の姿があります。また、産業都市川崎のそびえたつ煙突、そこから出る煤煙など当時の負の風景が映り込んだ写真もあり、どの写真をとってもドキュメンタリー映画のひとコマを見るようです。



以前資料室をご利用くださった大学関係の先生からも「こんなにたくさんのメーデーの写真は見たことがない、非常に貴重なものです。大事に保管なさってください。」と励ましのお言葉をいただきました。年配の方にはあの頃を思い出すよすがとして、また若年層の方にはこんな時代もあったんだと新たな認識を得るために、ぜひ一度ご覧いただきたいと思います。

川崎市労働資料室だより 第21号 平成30年6月発行

編集・発行 川崎市労働資料室

郵便番号 210-0011

川崎市川崎区富士見 2-5-2

サンピアンかわさき（川崎市立労働会館）5階

電話 044-222-4416（代）

ホームページアドレス

<http://www.kawasaki-city-lml.jp/>

